2020年11月26日更新

※随時更新予定です。

オンライン開催 マニュアル (視聴者用)

目次

1.	オンライン開催方法について(共通)	•	•	• P 2
2.	発表者マニュアル	٠	•	• P 6
3.	視聴者マニュアル	٠	•	• P18
4.	著作権について	•	•	• P23
5.	座長マニュアル	۰	٠	• P25

謝辞:本マニュアルは公益社団法人応用物理学会様のマニュアルを基に本 会向けに作成しました。ご提供いただきました(公社)応用物理学 会様に感謝いたします。



1. オンライン開催方法について(共通)

1. イベントと開催方法

口頭講演	Zoomを用い、LIVEで開催します。※ 登壇者の方には、画面共有でスライドを表示してご講演いただきます。 聴講者(登壇なし)の皆様には、講演中はマイクをオフにしてご参加いただき ます。 講演中、講演後に「手を挙げる」機能で質疑応答のリクエストを出していただ き、座長の指名により質問ができます。	
ポスター講演	REMOを用いて開催します。詳細は、ポスター講演のマニュアルをご覧下さい。	
シンポジウム	Zoomを用い、LIVEで開催します。 S1 12/1(火) 15:30-17:30 「ホイッスラー波の物理と応用」 [基礎 /領域企画] S2 12/1(火) 15:30-17:30 「ホイッスラー波の物理と応用」 [基礎 /領域企画] S3 12/2(水) 15:30-17:30 「核融合炉においてヘリウムプラズマ-壁相互作用が もたらす問題点の整理と課題克服への対応」 [核 融合プラズマ・核融合炉工学/領域企画] S4 : 12/2(水) 17:45-19:45 「2030年代以降を見据えたプラズマ・核融合科学の 学術課題」[全領域] S5 : 12/3(木) 10:30-12:00 原型炉研究開発共同研究の進展 [核融合炉工学 / 領 域企画] S6 : 12/3(木) 15:30-17:30 「離散と連続状態を移り変わるプラズマの物理と研 究手法」 [基礎 / 領域企画] S7 : 12/3(木) 15:30-17:30 「大気圧近傍におけるプラズマ生成とその応用」 [応用 / 領域企画] S8 : 12/4(金) 9:00-11:00 「高温超伝導技術が切り拓く新たな核融合研究展 開」 [核融合プラズマ・核融合炉工学 / 領域企画]	
オープニング・ク ロージング・特別 講演等	グ・ク ・特別 Zoomのウェビナー機能を用い、LIVEで開催します。	
展示会	Remoを用いて開催します。 ポスター会場に展示企業のテーブルを用意します。	
各種表彰行事	Zoomのウェビナー機能を用い、LIVEで開催します。	

1. オンライン開催方法について(共通)

- 2. Zoomとは
 - Zoom https://zoom.us/
 - ・Zoomヘルプセンター(利用ガイド) https://support.zoom.us/hc/ja
 - ・動作確認用のテストサービス _http://zoom.us/test
 - ・お役立ちサイト(日商エレクトロニクス株式会社のZoomサポートサイト) https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja
- 3. 用語

・ホスト

Zoom会議室の管理者。プラズマ・核融合学会年会現地実行委員会(学生アルバイト含む)が担当します。

・共同ホスト

座長が担当します。座長がセッション会誌10分前にルームに入室後、ホストが「共同ホ スト」の役割を割り当てます。

・講演者

登壇者はZoomの一般参加者として参加します。登壇者は画面の共有、チャットが可能です。ウェビナーの場合は、登壇者はパネリストとなります。

・視聴者

聴講者はZoomの一般参加者として、マイクをオフにして参加します。「手を挙げる」機能で質問する意志を示して、座長の指名を受けたあとにマイクをONにして登壇者や座長とやり取りができます。ウェビナーでは、挙手機能で質問・コメントの意思をお示しいただき、座長の指名を受けて口頭でご質問・コメントいただきます。講演時間が終了になった時にはQ&A機能でご質問・コメントを記入していただけば講演者に内容を確認していただけます。

・ウェビナー

オープニングやクロージング、特別講演やなどはZoomのウェビナーで開催されます。 ウェビナーではホストと指定されたパネリストがビデオ、オーディオ、画面を共有できる ように設計されています。ウェビナーには、視聴専用の出席者(視聴者)が存在します。 視聴者は、挙手からの口頭での質問、コメントが可能です。講演時間終了後はQ&A、チャ ットを通じて、講演者とのやり取りも可能です。ホスト、共同ホストは視聴者のミュート 解除をすることもできます。 4. ご準備いただくもの

a) 端末

ZoomではWindows、Mac、Linux、Android(スマートフォン・タブレット等)、iOS(iPad、 iPhone等)に対応しています。サポートされている利用可能な端末(OSのバージョン等)を確認 しておいてください。また、ビデオ会議にはCPU性能が要求されるため、性能が低いと映像・音 声の途切れが発生したり、操作に時間がかかったりすることがあります。

Zoomをパソコンにインストールせず、ウェブブラウザでZoomを使用することもできます。 ウェブブラウザによって機能制限がございます。ウェブブラウザでZoomを使用される場合は、 機能制限のないGoogle Chromeのご利用をお勧めいたします。 詳細は、以下のページでご確認ください。

https://zoom-support.nissho-ele.co.jp/hc/ja/articles/360021584812-Web%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%A6%E3%82%B6%E3%81%A7Zoom%E3%82%92%E 4%BD%BF%E3%81%88%E3%81%BE%E3%81%99%E3%81%8B-

b) ネットワーク

安定して利用するためには有線接続あるいは高速なWi-Fi接続が望ましいのですが、安定してい れば携帯電話回線(3G/4G)でも利用可能です。普通にWebにアクセスができる端末と、端末にア プリケーションをインストールできる権限があれば、ほぼ問題なく利用できます。ただし、利用 するネットワークにおいて、途中にWebプロキシがあったり、ストリーミングサービスの利用が 制限されていると接続できないことがあるので、事前に動作確認しておいてください。なお、ネ ットワークを使い続けることになるため、3G/4Gなどでは通信量の制限の問題が生じたり従量制 課金で課金額が大きくなる可能性があります。

c) 附属設備

マイクとスピーカ

ー人でビデオ会議に参加する場合は、ヘッドセット(イヤホンマイクなど)を利用することが 望ましいです。ヘッドセットなどを利用することで、相手の声が聞き取りやすく、また後述のエ コーによるハウリングなどの問題を生じさせにくくなります。ワイヤレスのイヤホンマイクを用 いる場合には、接続前に十分な充電がなされているか確認しておいてください。アナログマイク を利用する場合は、音量レベルが低かったり音が割れるなど品質が悪いものが多いため、事前に 音声品質の確認を十分にしてください。

内蔵のマイク・スピーカでも最低限の通話は可能ですが、ビデオ会議用のスピーカ・マイクを 外付け(USB接続が一般的)することで、より快適な通話が可能になります。タブレットやスマ ートフォンの場合はBluetooth接続が可能なスピーカ・マイクを利用すると良いです。無用なエコ ー(音の送り返し)を発生させないためにも、外付けのビデオ会議用スピーカ・マイクの利用を お勧めいたします。ビデオ会議用のスピーカ・マイクはエコーが発生しにくいように配慮(エコ ーキャンセラ内蔵など)されているものが多いです。

Zoomではパソコン上で再生された音声を送信することが可能です(「画面の共有」の際に左 下隅の「コンピュータの音声を共有」のチェックボックスを入れる)が、利用できる環境には制 限があるため事前にテストしておく必要があります。

D) カメラ

学会での発表を多数が聴講する場合は、発表者と座長、質疑の際の質問者以外は映像の送出を 控えネットワークの帯域を節約することが望まれます。またスライドを共有し音声だけでプレゼ ンを行う場合には、原則カメラによる映像送出を行ってください。

パソコン内蔵カメラがあると、手軽にビデオ送信できますが、より広角を映したいときや、カ メラの向きを自由に変えたいときは、外付けのUSBカメラ(広角のもの)を用意することが望ま しいです。三脚に固定可能な仕様になっていると、さらに使い勝手が良いです。

ビデオカメラやデジタルカメラをUSBでパソコンに接続して利用することも可能であるが、録 画していない状態で長時間放置すると、一定時間後に電源が切れることが多いので、事前に設定 を変更しておいてください。

外部機器からの映像出力を送信する必要がある場合は、ビデオキャプチャを用意してください。

4

- 5. 事前準備(ご確認いただくこと)
 - a) 事前のインストールと動作確認

Zoomビデオ会議システムを初めて利用する時は、アプリケーションのダウンロードとインスト ールが必要です。外出先でのビデオ会議利用を予定している場合は、ネットワークの状況が悪いと ダウンロードに時間がかかり会議の開始に間に合わないことがあるため、事前にネットワークが十 分な場所で動作確認しておくことをお勧めいたします。また、音声の送受信に問題がないかも、事 前に確認しておくことが望ましいです。

Zoomは最新版でないと使えない機能があるので、アプリケーションをインストール済みであっても利用の前に最新版をインストールし直しておくことが望ましいです。

●最新バージョンはどこでダウンロードできますか?

https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362233-%E6%9C%80%E6%96%B0%E3%83%90%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%83%A7%E3 %83%B3%E3%81%AF%E3%81%A9%E3%81%93%E3%81%A7%E3%83%80%E3%82 %A6%E3%83%B3%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89%E3%81%A7%E3%81%8D %E3%81%BE%E3%81%99%E3%81%8B-

b) デバイスの認識確認

外付けのスピーカ・マイクやWebカメラを接続する場合は、インストールしたアプリが、利用したいデバイスを正しく認識するか、また音声の送受信に問題がないか、事前に確認してください。 ビデオ会議の事前動作確認ができない場合でも、コントロールパネル等で個別に動作確認をしておくと良いです。動作確認にはzoomのテストサービス(前述)が利用可能です。また、Skypeの「スカイプ音声テストサービス」も利用できます。

c) 参加者名の設定

参加者名は座長が発表者を識別しやすいよう、氏名や所属の情報を含むようにすることが望まれます。会議室に接続後でも変更可能です。

Zoomでのユーザ名(表示名)は発表者は「*講演番号:氏名漢字(氏名ローマ字)」、座長は「**座長:氏名漢字(氏名ローマ字)」、聴講者は「氏名漢字(氏名ローマ字)所属」としてください。 発表者と座長は漢字氏名の前に全角アスタリスク(*)を、座長は二つ、発表者は一つ付ける事にご 注意下さい。(Zoomの参加者リストで上位に表示されるようにするため)

- ✓ 発表者の例) * 01Aa02: プラ核太郎(Taro Purakaku)
- ✓ 座長の例) **座長:プラ核次郎(Jiro Purakaku)
- ✓ 聴講者の例) プラ核三郎(Saburo Purakaku)プラ核大
 ※発表者や座長はセッションごとに表示名を変更してください

d) 同室での複数利用

同じ部屋にいる複数の参加者がそれぞれ端末を持っている場合、それぞれがビデオ会議の会議室に 接続することで、手元で共有資料を見ることができて便利です。ただし、それぞれの端末でマイク やスピーカが有効になっていると、エコーやハウリングの原因となるので、音声を扱うメインの端 末を一つに限定し、それ以外の端末では、必ずマイク・スピーカをミュートしておいてください。

e)会議室の最大人数制限

今回のZoomでは、一つの会議室に接続できる参加者数の上限は100名であり、上限を超えた接続は受け付けられません。(ウェビナーは300名まで接続できるものを核融合研のご厚意で利用させて頂けます)

3. 視聴者マニュアル

セッション視聴用サイトにログイン

セッション視聴用サイト(プラ核学会事務局より通知予定)を開い てください。

ログインID、パスワードはメールでお知らせいたします。

プラズマ・核融合学会の会員 ID、パスワードではありません

のでご注意ください。

3. 視聴者マニュアル

Zoom会議室入室

セッション閲覧サイトのタイムテーブル、またはプログラムページにある 「Zoomはこちら」ボタンをクリックしてください。



※ウェブブラウザから利用して参加される場合は、zoomアプリがインストール されている場合はアンインストールをしてください。ブラウザはGoogle Chromeをご利用ください。

3. 視聴者マニュアル

ビデオとマイクのOFF

聴講者は、入室時にビデオとマイクをOFFにしてください。 発表時以外は映像送出は行わないでください。 「参加者」をクリックすると参加中の参加者を確認できます。

マイクとビデオをOFFにする



3. 視聴者マニュアル

参加者と名前の変更

[参加者]をクリックすると接続している参加者の一覧が表示され、マイクやビデオの状態が判ります。

自分自身にマウスカーソルを合わせ〔詳細〕をクリックすると[名前の 変更]が現れ、これを選択すると名前を変更できるようになります。

プラズマ・核融合学会においては、聴講者は名前を「漢字氏名(ローマ 字氏名)所属」としてください。

例 プラ核三郎(Saburo Purakaku) プラ核大

名前を設定(参加者から	ら自分の"詳細"を選択)
	- □ × 参加者 (2) M (自分) <u>名前02度</u>
	Masafumi Jinne (1997) (回1997) (中国) (1997) (中国) (1997) (中国) (1997) (19
	 プラ核三郎 (Saburo Prakaku)プラ核大 ✓ 将来のミーティングの りにこの名前を記憶する OK キャンセル
	名前は 「漢字氏名(ローマ字氏名) 所属」 とご登録ください。

3. 聴講者マニュアル

質疑

講演の質疑応答で発言を希望される場合は、"手を挙げる"機能で発言の意思を座長に示し、座長の氏名を受けた後にマイクをONにしてご 発言ください。

"手を挙げる"機能で発言の意思を表明する





!ご注意ください!

★受信映像や発表資料の保存(画面キャプチャを含む)、 録音、録画、再配布は禁止です。

必要な場合は、発表者や主催者等、事前にすべての関係 者に許可を得てください。

予稿原稿、当日の発表スライド、シンポジウム動画の著作権は一般社団法人プ ラズマ・核融合学会に帰属します。予稿原稿は、ウェブプログラム、予稿集に 掲載されます。 引用・転載について

オンライン開催の場合も、現地開催の場合も引用、転載の記載方法は同じです。

●引用

「引用」とは、例えば自説を補強するために自分の論文の中に他人の文章を掲載 しそれを解説する場合のことをいいますが、法律に定められた要件を満たしていれ ば著作権者の了解なしに引用することができます(第32条)。

この法律の要件ですが

[1]引用する資料等は既に公表されているものであること、

[2]「公正な慣行」に合致すること、

[3]報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること、

[4]引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること、

[5]カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること、

[6]引用を行う必然性があること、

[7]出所の明示が必要なこと(複製以外はその慣行があるとき) (第48条)

の要件を満たすことが必要です(第32条第1項)。

[2]と[3]の要件については、判例で明確になっており、少なくとも自分の著作物 と他人の著作物が明瞭に区分されていること(引用部分の明確化)、自分の著作物が 主体であり、引用する他人の著作物は従たる存在であること(主従関係)、引用しな ければいけない相当の理由があること(必然性)などが必要です。

●プラズマ・核融合学会は教育機関ではなく、講演自体も教育を目的としてなされるものではないため、著作権法35条の対象とはならないと考えられます。

●肖像権・パブリシティー権・所有権・敷地管理権

人の写真を掲載する場合、本人の許可を取るか、顔がわからないよう加工してく ださい。(肖像権)

芸能人や著名人の写真は一切使用しないでください。(パブリシティー権) 神社・寺・仏閣、美術品、などは自分が撮影した写真や映像であっても使用しな

一种社・寺・仏阁、美術品、などは自力が撮影した与真や映像でありても使用しないでください。(所有権・敷地管理権)

●論文とは異なり単行本の図や表をそのまま引用する場合は注意してください。図や表は出版社が作成して、出版社が著作権を有しているケースが多々あるので、文章の著者から許諾を得ただけでは図や表を配信に使用できない場合もございます。

●本の表紙や絵は、出版社に伺いを立ててから条件に従って使用してください。